

# 南丹市陸協通報



## 口丹波地域における南丹市陸協の課題

南丹市陸上競技協会 会長 中村 武司

2月1日に開催された第34回定時総会の役員改選により、宇野競技部長、内藤審判部長の2名が副理事長兼務となる新役員体制で2015

年度がスタートしました。

7月12日、京都陸協栄章規定により2014年度審判員功労賞に尾池允嘉南丹陸協幹事、指導者功労賞に岡本潤子同強化部長が受賞され、第70回京都陸上競技選手権大会にて表彰されました。S級公認審判員の尾池氏は写真判定員として、岡本氏は京都陸協強化部投てきパート長として益々の活躍が期待されています。

一方、南丹市陸協(船井郡陸協時代を含む)設立時から永年ご指導員いだきました、S 級公認 審判員の近藤徹氏と、前年度まで南丹陸協顧問として活躍されました吉田守氏が、2014年度 をもって引退を決意され、両氏には陸協より記念品をお渡しし感謝の意をお伝えしました。

本年度、南丹市陸協が所管する地域の陸上競技をとりまく環境が大きく変わります。

ホームグランドの府立丹波自然運動公園に新設されるトレーニング場と、併設される新合宿所 工事を機に、かねてより京都陸協と共に要望していた陸上競技場の3種から2種への昇格に向け ての改修計画が動き出しました。今後は競技会運営の質的向上とともに、私たち地元陸協も組織 の充実と後継者の育成が求められます。会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

また、南丹陸協が主催する競技会では、選手権大会、春・秋の記録会とも安定した競技会運営が継続され、厳しい時期を乗り越えた京都丹波ロードレースは、再出発10年目を数え4000名のランナーを迎える地域の貴重なイベントとして定着しつつあります。

さて、残る課題は競技力向上と陸上競技の地域普及です。「小学生陸上教室」を小学生に限定 せず、日程等が合えば中学校の陸上部員も合流する取り組みが3年目を迎え、開催日数20日、 登録会員70名と充実してきました。

地域の少子化が進行し小学校の統合・廃校が進む中で、他のスポーツとの棲み分けだけに留まらず、大きな視点での地域スポーツの振興・発展の仕掛けも必用ではないかと考えます。

中学校での陸上部の活動には厳しい現状が続いていますが、2020年東京オリンピック開催を機に、口丹波地域に陸上競技の土壌が耕され育っていくことを祈念すると共に、そのため課題を模索することが重要と考えます。会員の皆様のご協力に期待します。

# 第31回京都府小学生陸上競技選手権大会観戦記



11月1日(日)西京極運動公園陸上競技場で、第31回京都府小学生陸上競技選手権大会が行われました。丹後、丹波、京都市南部のそれぞれの地域の予選会で8位までに入賞した選手と、予選突破記録を出した563名、リレー60チームが集まり、京都府No..1をかけ、競技に取り組みました。南丹・京丹波地域からは、個人種目に14名と、リレー1チームが出場しました。

男子・女子ともに、800m走での予選突破者は、 南丹・京丹波にはなく、女子は2分20秒台、男子は 2分10秒台と京都市、丹後地域の強さが目立った大 会でした。





走り高とび、特に男子の記録は低調で、1 m 2 8 c m クリアで入賞できる内容でした。南丹市・京丹波の学校で行われている交歓記録会の記録を下回る記録で、もっと多くの小学校からの参加を呼びかけていきたいと思える結果でした。

男子100m走には、南丹陸上教室に参加されている、園部小学校井尻隼平君が、予選突破はなりませんでしたが自己新記録13秒70で走りました。



# アスリートインタビュー

明日をリード!

南丹市陸上競技協会が主催する陸上教室に参加し、このほど第31回京都府小学生陸上競技選手権大会に出場した井尻隼平君(南丹市立園部小学校6年)に陸上競技に対する熱い思いをインタビューしました。



園部小6年 井尻隼平君

# Q3. 短距離、特に100m走をやりはじめたきっかけは?

姉が陸上で短距離をしていて、 ぼくもやりたいなあと思ったか らです。

#### Q1. 陸協の陸上教室に入った理由は?

一 走ることが好きで、速く走れるように なりたかったからです。

#### Q2. 陸上教室は、楽しいですか?

一 楽しいです。

特に、高校生の人たちと一緒に取り組 めるところが楽しいです。



府小学生陸上競技選手権大会で力走する井尻君

#### Q4. 予選突破記録を出して、西京極競技場で走った感想は?

一とても走りやすく、気持ちよかったです。

#### Q5. 今後の目標は?

一 中学校でも陸上をがんばって、京都府で1位になりたいです。

#### Q6. 今後どんな陸上教室になったらいいと思いますか?

― もう少し、専門的なことを高学年になったら取り入れてほしいです。

### 尾池允嘉さんが京都陸協審判功労章を受賞されました!

当陸協のS級公認審判員の尾池允嘉さんが審判功労章を 受賞され、その喜びの声をお聞きました。

『私は、小学生の頃は体が弱くて運動することが少なかったのですが、陸上運動との関わりは中高生の頃から主として中長距離に取り組んだことからです。この頃から体ができあがっていったように思います。

公認審判員として記録会等の支援に関わらせてもらった のは 50 才を過ぎてからでした。初めのうちは仕事の関係 で年間出席数も少なかったですが、監察員や写真判定員を それぞれ 10 年ぐらいさせていただきました。

受賞を喜ぶ尾池さん

審判の仕事を通して感じることは、トップアスリート

の動きを間近に見られることはもちろんですが、競技会で親しくあいさつを交わす中で中高 生の成長を温かく見守っていけることです。大雨の日の競技会や写真判定装置のトラブルな ど、苦労もありましたが続けてきてよかったと思います。

退職後は家の仕事などを調整し、ほとんどの競技会に出席しています。年間で 50 回程度になります。経験を積み重ねることで要領などもわかってきます。これからは、若手の審判員さんに伝えていきたいです。

今回の受賞は、支えていただいた方々のおかげでいただけたものですから、体の続く限り 務めていきたいと思います。』

# ☆あなたも陸上競技の審判をしてみませんか!

南丹市陸上競技協会では、会員を常時募集しています。また、陸上競技の競技会を開催する上で必要となる公認審判員としての資格の取得をお手伝いしています。

公認審判員は、競技会において審判の任にあたり各種競技の記録計測を担ったり、運営に携わったりします。

南丹市陸協では、地域の競技会での審判はもとより、冬期に開催される全国女子駅伝や全 国高校駅伝などの審判も担っています。あなたも競技会や駅伝大会の審判員として携わって みませんか。